

11月5日（金）

研修5日目

報告：大久保怜子（Cグループ）

---

午前：

・ John A. Burns School of Medicine (JABSON) でのレクチャー

Dr. Izutsu より

・ 米国の医学部進学は大学での成績の平均点 (Grade Point Average, GPA) や医科大学入学共通試験 (Medical College Admission Test, MCAT) の成績により判断される。

・ ハワイ大学ではさらに1時間のinterviewにより

① leadership skill ② interpersonal skill  
③ real like help people ④ physically, mentally strongの素質をみる

・ 医師とは科学と同様にartとして専門性をみるhumanistであること

・ 病に對峙して生きている人間に向き合っていることを意識すること

Dr. Machi より

・ 米国では Accreditation Council for Graduate Medical Education (ACGME) という評価・認定機構がレジデンシーやフェローシップの研修内容や労働時間などを病院ごとに厳しく管理している。

・ ハワイ大学医学部の教育の特徴の一つはPBL (Problem Based Medicine) : 少人数グループで症例から学習課題を引き知識を身につけていくスタイルの教育システム。

・ Medicine is a science of uncertainty and an art of probability (William Osler)

・ 医学の動向、医療費、その他の多様社会的関心事を認識することの重要性。



・ JABSON カフェテリアでの昼食会

Dr. Izutsu、Dr. Machi、家庭医療のレジデントたちとともに昼食をとりながら語り合う。

午後：スキルラボでのミニ実習



人形を使ってのケーススタディ。各グループに指導者がつき私たちの行動を記録している。また上方より映像が撮影されている。1例ごとに振り替える時間があり、病態・治療の説明だけでなく、全体の人動き方を録画した映像を交えて反省・考察することでチームとしてのまとめや役割の認識をさせる。スキルラボの設備は医大と同程度であった。